

支援者の皆様

このたびは、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の難民援助活動に、温かいご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。ご確認ください。

お寄せいただいたご寄付につきまして、領収証をお届けいたします。ご確認ください。

ある日突然、家を追われ、命からがら逃げ出さざるを得なかった難民・避難民にとって、皆様から差し申しられた温かい手は、何よりも心強い支えです。

厳しい避難生活が続き、先が見えない不安に、時には悲観的になる難民も少なくありませんが、援助活動にあたるスタッフはもちろんのこと、難民たち自身も決して希望を失わず、日々を懸命に生きています。

一人でも多くの難民の人々に希望を与えられるよう、今後とも、支援者の皆様と手を取り合って、援助活動を進めていきたいと思っております。どうぞ、引き続き、力強いご支援をよろしく願っています。

特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会
事務局長 高嶋 由美子



ハイチ大地震から半年、一時避難所で暮らす子どもたち
©UNHCR/ J. Björqvinnson



1 メールニュースのご案内

国連 UNHCR 協会では、難民支援の最新情報や、イベント情報をご案内するメールニュースを、eメールにて、お送りしております。どうぞ、ご登録ください。ご登録はホームページから、または下記アドレスに「メールアドレス登録」のタイトルを明記の上、お名前と登録 ID をお送りください。mailnews@japanforunhcr.org

2 個人情報のお取扱について

皆様の個人情報、当協会の定める個人情報保護方針に則り適切に管理し、原則として難民支援に関する広報物をお送りする以外に使用することはありません。

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の緊急援助活動

ハイチ大地震

150万人の国内避難民への支援、当面続く見込み

2010年7月20日
特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会

1月12日にハイチ大地震が発生して6カ月、UNHCRはハイチに緊急支援チームを派遣し、国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）、政府、パートナー機関と密接に連携しながら、現地での緊急援助活動に取り組んできました。地震発生当初は、緊急対応としてシェルターの確保にあたり、その後、ハイチからドミニカ共和国に避難した人々やけがを負った人々への支援や、ハイチの首都ポルトープランスやその周辺で避難生活を送る多数の人々の復興支援に移行しています。UNHCRはこれまでに、20万人を超える被災者に対して、緊急援助活動を行ってきました。

現地では、膨大なニーズに対して支援が十分に行き届いていない状況にあり、今後解決していくべき課題はまだ山積しています。自分の家を追われ避難生活を送っていた人の数は、一時、230万人にも上りましたが、今もなお150万人の人々が避難生活中であり、その多くが、ポルトープランスを含む周辺地域にある避難所で暮らしています。こうした国内避難民に対する持続的な解決策は、まだ見つかっていない状況です。

UNHCRとOHCHRは、国内外の機関と連携しながら、国内避難民の保護のために必要な支援の調整にあたっています。避難所の治安はまだ十分に改善されていず、また、その状況もあまり衛生的ではありません。多くの人々が、私有地で避難生活を送っているため、土地の所有者からいっ追い出されるかと不安な思いで暮らしています。中でも最も貧しい人々においては、地震の前には借家暮らしであったため、今は帰るところがないという大変厳しい状況に直面しています。

UNHCRは、OHCHRのサポートにより、極めて脆弱な立場におかれた人々や避難民を受入れているコミュニティに対する保護を強化するために、ドミニカ共和国との国境周辺、および、ポルトープランスから離れた地域での支援活動を継続して行っています。

UNHCRは、引き続き皆様からのご支援を必要としています。皆様のご寄付で、たとえば以下のような支援ができます。

■9,000円で、

避難生活に必要な不可欠な毛布や調理器具などの生活用品1セットを配布することができます。

■18,000円で、

一家族に、当面の間生活できる丈夫なテントを配布することができます。

ハイチ大地震の影響により今なお避難生活を送る人々が、一日でも早く安心して暮らしを取り戻せるように、皆様の温かいご支援をお願いいたします。